

令和 7 年度

# 運営に関する計画

大阪市立波除小学校

令和 7 年 9 月

## 大阪市立波除小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> 「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」 ① 小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>89%以上</b> にする。 (R6 88.7%) (R7 88%) ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R6 46.1%) ③ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>89%以上</b> にする。 (R6 88.7%) (R7 88%) ④ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>86%以上</b> にする。 (R6 85.2%) (R7 87%)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</b> ・いじめの認知について、文部科学省から示された捉え方を教職員間で共有し、実態の正確な把握に努める。 ・いじめアンケートを毎学期行い、いじめの早期発見を図り、解消に向けて組織的に取り組む。	
<b>指標①</b> 学校アンケート「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (R7 88%) A…91%以上 B…80%～90% C…80%未満	
<b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</b> ・自他を尊重し、誰もが安心して過ごすことができる学級経営、学年集団づくりの取り組みを推進する。 ・不登校対策委員会を学期に1回開き、不登校児童の実態について共通理解を図り、対策を組織的に協議して支援体制を強化する。 (R7：不対委1回、研修1回 計2回)	
<b>指標①</b> 不登校対策委員会や研修会を開く。 A…4回以上 B…3回 C…2回	
<b>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</b> ・看護当番が一週間の児童の様子を把握し職員間で共通理解を図り、児童朝会で児童に伝え、学校のきまりを守ろうとする意識をもたせる。	
<b>指標①</b> 学校アンケートの「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>88%以上</b> にする。 (R7 88%) A…88%以上 B…85%以上 C…80%以下	
<b>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b> ・特別の教科「道徳」の指導要領における内容項目(A)主として自分自身に関することの「個性の伸長」をねらいとする授業や取り組みを定期的に行う。指導にあたっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、自尊感情を高めるようにする。 ・各学級・異学年交流の「いいところみつけ」を実施し、自己肯定感の育成と向上につなげるようにする。	
<b>指標①</b> 学校アンケート「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。 (R7 87%) A…86%以上 B…85%～80% C…80%未満	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</b> ・学期に一度いじめアンケートを行い、いじめもしくはいじめにつながるかもしれない事案については各学年・学級で聞き取りを行い、早期発見に努めている。学校全体で話し合う必要があることは生活指	

導部会で共通理解できている。また、「いじめ・命について考える日」に学校長による講話・学級での指導を行い、児童に「いじめはいけない」という意識をもたせることができている。

**取組内容②【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の充実】**

・問題行動や行き渋りなどが見られたときは、学年間・特別支援担当で情報共有し、問題が大きくなることや不登校児童にならないよう働きかけている。また、月１回の生活指導部会、学期１回の不登校対策委員会で不登校児童について共通理解をはかれている。

**取組内容③【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の充実】**

・看護当番日誌を活用し、看護当番が気づいたことを引き継ぎ、職員間で共通理解をし、児童に注意を呼びかけにより多くの児童がきまりやマナーを守れている。

**取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】**

・道徳の授業、日常の授業の中で、児童の良いところほめたり、児童同士が認めあう時間を設定したりしている。

・定期的に「いいところみつけ」を実施している。

・児童会や委員会活動やたて割り班などを通して、達成感を味わえる取り組みをしている。

次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の充実】**

・今後も継続して取り組んでいく。

**取組内容②【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の充実】**

・今後も継続して取り組んでいく。加えて、生活指導支援員、スクールサポートスタッフなどによる学校の行き渋りや課題のある児童の支援も検討し、今後の方針を担任を中心とした教職員と共通理解する必要がある。

**取組内容③【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の充実】**

・多くの児童がきまりを守ろうとしているが、まだ黄帽をかぶらない、名札を付けない等の児童が一定数見られるため、見つけた教員がその都度指導するように教職員が意識をもつ必要がある。また、看護当番の報告など職員間の共有がなされていない時があるため、習慣化するよう意識する。

・児童たち自らがきまりを守ることが出来るような取り組みを行うなどの手立ても検討してみる必要がある。

**取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】**

・道徳の「個性の伸長」のねらいを発達段階、道徳教育全体計画を再確認し、日常の指導に生かす。

## 大阪市立波除小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> 「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」 ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を <b>50%以上</b> にする。 (R6:47%) (R7:53%) ② 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>70%以上</b> にする。 (R6 68.7%) (R7:76%) 「学校独自の目標」 ③ 小学校学力経年調査における「社会の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>69%以上</b> にする。 (R6 68.7%) (R7:82%)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> ・あらゆる学習活動の中で、考える時間の確保やワークシートの工夫、話し合い活動の設定など自分の考えや思いを表現する力を身につけるための指導を工夫する。	
<b>指標①</b> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を <b>47%以上</b> にする。 (R7:53%) A…50%以上 B…40%～50% C…40%未満	
<b>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> ・英語短時間学習の時間を通じて、楽しみながら外国語(英語)にふれることができるようにする。	
<b>指標①</b> 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>70%以上</b> にする。 (R7:76%) A…71%以上 B…65～70% C…65%未満	
<b>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> ・教員が師範授業や研修会、各自の文研研究等を通して社会科への教科理解を深める。 ・授業研究会を通して社会科学習における主体的・対話的かつ深い学びを構築する指導力を高める。	
<b>指標①</b> 学校アンケートにおける「生活科・社会科の学習は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を <b>69%以上</b> にする。 (R7:82%) A…69%以上 B…68～64% C…64%未満	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> ・考える時間を十分に取ることにより自分自身の考えをもたせた後、グループワークを取り入れ、発達段階に応じた話し合いの時間を計画的、系統的に設定した。そのため、話し合いの中で、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになってきた。 ・ICTや思考ツールなどを使いながら自分の考えを整理する指導を行うことによりグループでの話し合いが深まったり広がったりすることにつながってきている。	

**取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・ 短時間学習の時間に、ドリームに入っている歌を歌ったり、体を動かしたりして、英語を楽しんでいる。
- ・ 英語に慣れ親しんでいる様子がみられる。

**取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・ 日々の授業の中で I C T の活用や資料作成の工夫を行うことにより児童が意欲的に学習活動へ取り組めるようにしている。
- ・ 研修会や師範授業を通じて、また社会科の研究授業を見ることで、教員が社会科という教科理解を深めてきている。

次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・ あらゆる教科・領域の学習の中で伝え合う機会を多く設定する。また、発言しにくい児童に対する声かけの工夫を考えることにより、どの子も自信をもって自分の考えや思いを表現できる力を身につけさせていく。
- ・ グループで話し合う中で自らの考えを深めることができる方法を工夫していく。
- ・ 自分の考えをもたせたり話し合いを深めたりできる I C T や思考ツールの活用法をさらに工夫していく。

**取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・ 今年度は短時間学習が 10 分となったので、時間の確保が難しい。
- ・ 継続指導を行う。

**取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・ これから続く研究授業において社会科という教科そのものに対する理解を深め、主体的・対話的かつ深い学びにつながるよう指導力を高めていく。
- ・ 研究授業の中で、社会科につながる生活科の指導法について研究していく。

## 大阪市立波除小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b> 「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」 ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）（R6:32.8%）（R7:75.2%） ② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（1ヵ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下）を満たす教職員の割合を65%以上にする。（R6:65.8%）（R7:80.0%） 「学校独自の目標」 ③ 「はぐくみネット」や学校協議会の仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を推進する。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b> ・心の天気等の入力内容をもとに児童の実態把握・指導に生かす ・デジタルドリル(navima)を活用した自学自習を推進する。 ・デジタルコンテンツの活用による教材のペーパーレス化を図る。 ・デジタル教科書・教材を活用した授業の実施をする。	
<b>指標①</b> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（R7:75.2%） （ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く） A…55%以上 B…50～54% C…49%以下	
<b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ・働き方改革を学校全体として推進し、NO会議デー・NO残業デーを設定する。 ・会議の精選を行う。・ICT活用等による業務の効率化を図る。 ・スクールサポートスタッフに印刷業務などを振り分ける。	
<b>指標①</b> 1ヵ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下の教職員の割合を65%以上にする。（R7:80.0%） A…67%以上 B…65～66% C…64%以下	
<b>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b> ・各学年で、年に1回以上ゲストティーチャーを招聘しての学習活動に取り組む。 ・学校行事で学期に1回以上地域の方と協働した活動を設定する。	
<b>指標①</b> 学校教育アンケート「波除小学校では、地域の方と学習する機会を設定している。」に肯定的に回答する割合を50%以上にする。（R7:76.3%）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b> ・毎日、登校後と帰宅後に「こころの天気」を入れるように促すことで、パソコンに対する抵抗はなく親しめるようになってきた。	

- ・授業での資料を配布したり、連絡帳をクラスルームで共有したり、宿題でデジタルドリルを利用したりして、学校や家庭でも毎日 I C Tに触れる機会を作っている。
- ・研修を実施することで授業での ICT 活用への意識向上につながっている。

**取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】**

- ・印刷業務など学年で担う作業をスクールサポートスタッフにお願いすることで業務の効率化を図れている。
- ・今年度より NO 残業デーを実施し勤務時間削減への意識向上に努めている。

**取組内容③【基本的な方向 8 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】**

- ・各学年ゲストティーチャーや地域の方と協働した学習や活動を進めている。

1 年生・・・昔遊び（予定） 2 年生・・・町探検（予定）  
 3 年生・・・アイマスク体験 4 年生・・・水防団・着物体験  
 5 年生・・・茶道体験（予定） 6 年生・・・アクセスディンギー  
 全学年・・・空飛ぶトラック企業講話、万博遠足 等

#### 次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】**

- ・今後は低学年でも家庭でのパソコンを使った課題に取り組ませていく必要がある。
- ・家庭での充電を定着させる必要がある。
- ・子どもだけでなく教員も研修などを重ねて、授業計画や児童の実態に応じて活用するソフトの選択ができるようにしていく。
- ・今後も取り組みを続けていくなかで、子どもたちがほかの文房具と同じように扱うことができるように使う環境を作っていく。
- ・各教科でパソコンを使った授業をしていく中で、通信環境の悪い場所（体育館）があるため環境を整備する必要がある。

**取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】**

- ・会議の精選を引き続き検討し、現行の会議でも終了の時間を決めたり、合わせてできる会議は続きで行ったりするなどして、効率の良い会議を実施していくと同時に、実情に合った会議の方法を検討していく。

**取組内容③【基本的な方向 8 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】**

- ・各学年で地域の方と関われるように創意工夫を続け、連携したことを年間計画に位置づけ、記録・引継ぎが行えるようにする。